



Answer Key

解答・解説

Class _____ No. _____ Name _____

Reading Check

1. B 2. D 3. A 4. C 5. B

True or False: 1. T 2. F 3. T 4. F

Match

= ribbon = tower = peach = heart = hospital = shoes

Fill in the blanks

(1) October (2) pink (3) ribbons (4) cancer (5) tower (6) hug (7) says

Maze — Secret word

RIBBON

解説 (Reading Check)

1. B 最初の桃色のリボンからピンクに変わった話、月間の始まり、今の様子と批判までを説明しています。東京タワーや雑誌は話の一部です。
2. D 第1段落に But her ribbons were not pink. They were peach. とあります。ピンクは雑誌があとで選んだ色です。
3. A 第2段落に stores gave out 1.5 million pink ribbons that year とあります。5は予防に使われる予算の割合 (5 percent) 、1985は月間が始まった年です。
4. C Men can get it too, but this is rare. は、男性もかかるが、それはめったにないという意味です。前の文で女性に最も多いがんだと述べていることもヒントになります。
5. B グレースは My aunt had breast cancer, so this month is special to me. と言っています。誕生日や仕事の話は出てきません。



Translations

和訳・全訳

Class _____ No. _____ Name _____

和訳（問題文）

- T/F 1. 乳がんの最初のリボンは桃色だった。（正しい）
- T/F 2. 乳がん啓発月間は5月だ。（まちがい：10月）
- T/F 3. 東京タワーは2000年にピンクになった。（正しい）
- T/F 4. 乳がんになるのは女性だけだ。（まちがい：男性もなる。ただしまれ）
- If I make a poster for this month, I will draw _____ because _____.=この月間のポスターを作るなら、____をかくます。なぜなら_____だからです。
- To show that I care about others, I can _____.=人を思いやっていることを伝えるために、私は_____ができます。

全訳（Reading）

1 1991年ごろ、カリフォルニアに住む1人の女性が、自宅で小さなりボンを手作りしていました。彼女の名前はシャーロット・ヘイリー。60代後半でした。祖母も、姉も、娘も、みな乳がんになっていました。でも、彼女のリボンはピンクではありませんでした。桃色だったのです。

2 ヘイリーはリボンをカードにつけて、人々に郵送しました。カードには、国立がん研究所のお金のうち予防に使われるのは5%だけだと書かれていました。1992年、『SELF』という雑誌が彼女といっしょに活動したいと考えました。でも、その計画は商売のようだと感じて、彼女は断りました。そこで雑誌は新しい色を選びました。ピンクです。化粧品会社のエヴリン・ローダーの協力で、その年、お店で150万本のピンクリボンが配られました。

3 今、ピンクリボンは乳がん啓発月間のシンボルです。この月間は1985年にアメリカで始まり、毎年10月にやります。世界中で、有名な建物がピンク色に光ります。日本では、2000年10月に東京タワーが初めてピンクになりました。人々はウォークに参加したり、ピンクの服を着たり、検診について学んだりします。

4 乳がんは、日本でもほかの多くの国でも、女性に最も多いがんです。男性もかかることがありますが、それはまれです。企業はピンクの商品をたくさん売るのに、寄付はほんの少しだと言う人もいます。そこで、ある団体は買い物客に「ピンクにする前に考えて」と呼びかけています。小さなりボン1本で、何もかもできるわけではありません。でも、健康について話すきっかけになり、おたがいを思いやることを思い出させてくれます。

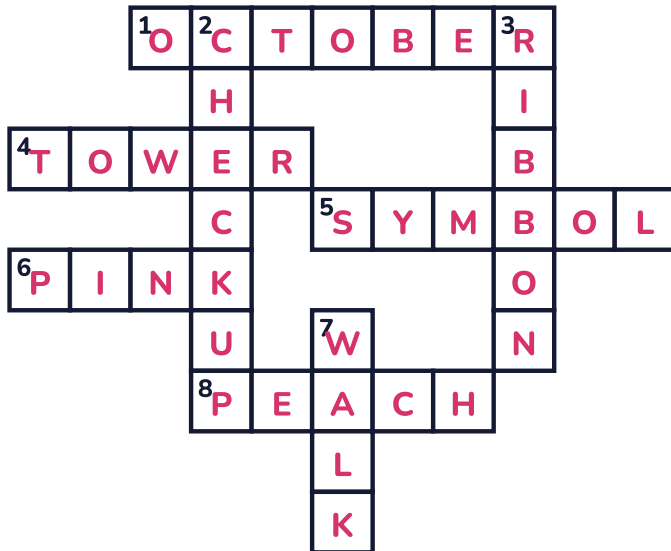


Answer Key (Puzzles)

解答 (パズル)

Class _____ No. _____ Name _____

Crossword



Word Search



Maze

